

自治会・町内会&NPO活動 おうえんシンポジウム

■実施報告<概要版>■

●イベントタイトル:

「自治会・町内会&NPO活動おうえんシンポジウム」
～自治会・町内会の大切さとNPO活動について楽しく学ぼう～

●イベント開催日時:

平成25年3月2日(土)
<シンポジウム・活動紹介> 13:30～17:00
<NPO法人によるブース出展> 13:00～17:00

●会場:

●イベントコンセプト:

市民がより快適に暮らしていくためには、自治会・町内会などの“地域のつながり”が大切です。地域のつながりについて具体例を交えながら、地域密着メディア・KBS京都ラジオの人気パーソナリティが参加者と一緒に学ぶイベントとして展開。また、様々な活動を展開しているNPO法人についても紹介し、自治会・町内会とNPO法人との連携についても考察しました。

●総合司会:笑福亭晃瓶、中村薫

(KBS京都ラジオパーソナリティ)

【イベント実施報告】

●地域のつながりについて、改めて考えるイベント

安心・快適な暮らしのために、自治会や町内会など地域のつながりはとても大切です。また、社会のためにさまざまな活動に取り組むNPO法人も、私たちの暮らしを充実させる存在です。そこで、こういった団体の活動を通じて地域のつながりについて考えようと、3月2日(土)にイオンモールKYOTOのSakura館4階Kotoホールで「自治会・町内会&NPO活動おうえんシンポジウム」を開催しました。

基調講演やパネルディスカッション等のほか、NPO法人の活動を介绍するブース出展やステージ発表もあるこのイベント。そこに、KBS京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」でおなじみのパーソナリティ・笑福亭晃瓶と中村薫も参加。楽しいトークで司会を務めながら、来場者とともに地域のつながりについて考えました。

●暮らしやすいまちづくりとそのための活動を学ぶ

イオンモールKYOTOにあるSakura館4階Kotoホールは来場者で満杯状態。13:30にシンポジウムがスタート。オープニングは総合司会・笑福亭晃瓶・中村薫の二人が、ご近所つきあいなど身近なエピソードも盛り込みながら、明るいミニトークを繰り広げました。

その後、西出義幸・京都市文化市民局長による開会挨拶へと続き、いよいよシンポジウムがスタート。

まずは基調講演。講師は、同志社大学社



会学部教授・京都地域コミュニティ活性化推進審議会会長の立木茂雄氏。「地域コミュニティの活性化～



地域のつながりがつくる暮らしやすいまち」がテーマ。来場者は時折うなずきながら、熱心に講演に耳を傾けました。

<基調講演内容(抜粋)>

18年前の阪神淡路大震災。その際、立木氏が神戸で行った「生活の再建」に関わる調査。そして、2年前の東日本大震災の際に行った同様の調査。これらからみる「人と人とのつながり」そして「地域コミュニティ」とは……。

キーワードは、『人と人とのつながりがもつチカラ』。

人と人とのつながりが豊かであればあるほど、被災者の生活の再建は前に進む。神戸においても東北においても、同様の調査結果。

さらには「地域のつながり」とは……

「地域活動が熱心なところの特徴」、神戸における調査の結果、5つの軸に分けられる。

1. 多様な住民を巻き込むこと
(多様な住民参加軸)
2. 地域のイベント、行事を活用すること
(イベント活用軸)
3. 自治ができ、安定して維持される仕組みがあること
(組織の自律力確保)
4. 地域の特徴などを意識的に発信すること
(地域・テーマの興味・愛着軸)
5. 自分から率先してあいさつすること
(あいさつ軸)

これらに取り組んでいくことで、地域のつながりが豊かになる。人のつながりが豊かな地域は、地域の秩序が乱れるのを抑止・予防する効果が。

『あいさつをすると、安心安全なまちになる』

㊟かるい声で、㊞つも、㊞きに、㊞づけていく。

そうすることで、自然と皆があいさつをするようになり、それが地域のつながりを豊かにする。その結果、皆がルールを守り、安心安全なまちになる。

地域コミュニティの話と聞くと遠い印象を受けるが、「自分からあいさつするだけで、より安全なまちになる」ということを踏まえ、自分たちからできることの実践を。

その後、14:20 頃からパネルディスカッションへ。先ほど講演をいただいた立木氏が引き続きコーディネーターを務めました。



迎えるパネリストは、

- ・紫竹学区(北区)自治連合会 総務・片山博昭氏
- ・NPO法人京滋マンション管理対策協議会 業務推進プロジェクト事務局長・賀川雅彦氏
- ・NPO法人子育ては親育て みのりのもり劇場 理事長・伊豆田千加氏
- ・NPO法人きょうとNPOセンター事務局次長・西田洋之氏

総合司会である笑福亭晃瓶・中村薫も加わり、「考えよう！元気なまちづくりのためにみんなができること」をテーマに展開。

<パネルディスカッション内容(抜粋)>

それぞれ4団体の活動紹介

- 片山氏:「元気な」紫竹学区の取組から…
→団体間の連携や学生も巻き込み「地域活動を楽しもう」がテーマ。イベントや活動の目的・まちづくりの理念を共有することが大切。
- 賀川氏:マンション管理組合の自律を支援…
→各管理組合の「自律力」をうまく高めることがポイント。各管理組合の課題を共有化し、互いに勉強・習得して、それを各管理組合で実践する手法。
- 伊豆田氏:地域と連携して活動するNPOの立場から…
→みんながワクワクする仕掛けをつくり、自治会や商店街など地元の方々に主役に、お手伝いする立場で活動。楽しそうなことをみんなでやる。キーワードは「子ども」。
- 西田氏:NPOの活動や連携を支援するNPO法人…
→地域の課題であっても、よく調べて突き詰めると人材や資源に可能性が。「やったらおもしろい」から「動けば変わる」のイメージができることが、NPO や地域がつながる原動力。



- 各団体の活動事例から読み取るポイント…
「多様な人達が緩やかに繋がると、大きなことができる」。
そして、それを進めるための原動力とは…
キーワードは、『共通の課題』と『ワクワクする未来』。
地域にある課題を我が事として捉える…そういう光が灯ればそれがすなわち「ワクワクする未来」となり、それに向かって関係者が動く原動力となる。そして地域力が高まるのではないか。
そのようなポイントが、議論を通じて浮かび上がった。

パネルディスカッション終了後、15:45からはNPO法人によるステージ発表の時間。各団体に日頃の活動についてお話を伺った後、それぞれが特色ある内容で楽しく分かりやすく、活動をPRしました。



<ステージ発表出演団体>

- ① 「NPO 法人認知症予防ネット」
…認知症予防の健康体操を披露
- ② 「NPO 法人京都がん医療を考える会」
…がんにまつわるクイズ
- ③ 「NPO 法人暮らしデザイン研究所」
…かばんを例にした整理・収納講座
イベントの最後には、お楽しみ抽選会を実施。イベントは大盛況のうちに、17時に終了しました。



●NPO法人の出展ブースでは、楽しい体験コーナーも。

シンポジウム会場のすぐ隣では、NPO 法人によるブース出展・活動紹介コーナーを開設。13:00~17:00まで、来場者はステージの合間に各NPO活動紹介ブースを見学。



そこでは、様々な分野で活躍するNPO法人が集い(15法人)、パネル展示等で日頃の活動をわかりやすく紹介。お子様も楽しめる体験コーナーも用意され、来場者は興味津々の様子でチャレンジされていました。また、会場では、ブースを回ってスタンプを集めると景品をプレゼントする企画も実施し、熱心にスタンプラリーに励む来場者の姿も見られました。

NPOの意義や魅力を知っていただき、NPOがこんな活動をしているんだと、市民の皆様にも身近に感じてもらうことができた時間でした。



<ブース出展 NPO 法人一覧>

- ①認知症予防ネット
- ②京都藝際交流協会
- ③暮らしデザイン研究所
- ④エンゼルネット
- ⑤京都教育サポートセンター
- ⑥京都がん医療を考える会
- ⑦花バソ
- ⑧きょうとグリーンファンド
- ⑨子どもとアーティストの出会い
- ⑩ピオトーブネットワーク京都
- ⑪アクセス-共生社会をめざす地球市民の会
- ⑫ふれあい吉祥院ネットワーク
- ⑬シーズネット京都
- ⑭フラワーアーティスト育成協会
- ⑮発起塾



当日は延べ400人が来場し、それぞれがステージやブース見学などを通じて、改めて地域のつながりの大切さを実感。自治会・町内会とNPO法人の連携による“地域力”の更なる向上の可能性をも感じさせる一日となりました。 以上